

令和2年度第1回庄原市初任者研修会

令和2年7月8日(水) 庄原市ふれあいセンター 集会室

「庄原市における教育課題を踏まえ、新任教職員に対して教育推進上の諸課題等について研修を行い、職務遂行上必要な実践的指導力を養うこと」を目的に、研修会を行いました。

【参加者：小学校教諭10名、中学校教諭8名、養護教諭1名、主事2名】

【講話】「庄原の魅力をお子たちに！」

庄原市教育委員会 教育長 牧原 明人

庄原市には、①豊かな自然の中で遊び学び育つ ②人の温かさ、助け合う心がある ③子供が素直にまっすぐに一生懸命に伸びようとする という魅力がある。特に、子供たちは「伸びたくて、伸びたくてたまらない」という思いを持っている。学校とは、希望があり、共に学び合い、成長することができる場である。

初任者の皆さんには、**絶えず自己を磨き、自ら成長していく姿勢をもって指導にあたってもらいたい。**

指導力 = 専門性 × 人間性 + 一般教養 である。自己を磨くため、探究や学び続けることを忘れてはいけない。

そして、「庄原で学んでよかった」、さらに「庄原で学びたい」と思われる教育を創造して行ってほしい。

また、AIの発達等により社会は Society5.0 の時代へと向かっている。そのような時代を生き抜く子供たちには、高い志をもち感性を磨く必要があり、創造力、情報活用能力、コミュニケーション能力が求められる。



(参加者の振り返りより)

○ 学ぶことは、「知る」「理解する」「疑問をもつ」「現状を変えていく」とことだという言葉が、特に印象的だった。子供たちがふるさと庄原で学んでよかったと思えるよう、自己を磨き高めていきたい。

○ 庄原の魅力を伝えるには、まず自分自身で学ばなければならないと気付いた。未来を創っていく子供の教育者として、子供たちと成長したい。

【講話・演習】「児童生徒、保護者への適切な対応」

庄原市教育委員会 教育部 教育指導課 指導主事 坂田 雅則

生徒指導には、事案発生時対応の消極的生徒指導だけでなく、未然防止のための積極的生徒指導がある。

児童生徒や保護者へ対応する際は、**教育的愛情と誠意をもって、早期に対応することが重要である。**特に、「いじめ」は、対等である子供同士の関係が、どちらか一方の言い分によって遊びのルールが変わる等、対等関係が崩れることから始まる。日々の児童生徒の様子 of 丁寧な観察、居場所づくり等の未然防止策が重要である。どのような事案であっても、一人で問題を抱え込まず、管理職や同僚へ**報告・連絡・相談**を行い、複数対応で誠意をもって取り組んでいく。

(参加者の振り返りより)

○ 生徒指導を行う際は、問題行動のみに着目するのではなく客観的、総合的に認識すること、生徒自身が自分の行動を振り返ることができるような指導が必要であることを学んだ。

○ 積極的生徒指導や学級指導、授業での指導の一つ一つが、いじめや不登校の原因をなくすことにつながると気付いた。

○ 自分の授業が、生徒指導の観点から見て評価できるか確認することができた。



【講話・演習】「接遇マナー」

庄原市教育委員会 教育部 教育指導課 指導主事 小谷 綾子

接遇は、おもてなしの心をもって相手に接することである。

〔接遇5原則〕

- ・挨拶 ・身だしなみ
- ・表情(笑顔) ・態度(姿勢)
- ・言葉遣い



(参加者の振り返りより)

○ それぞれに対応する際は、相手を思う気持ちが大切であることを学んだ。

○ 言葉はその人の内面を表すので、今後より一層発する言葉に注意していきたい。

○ 学校に来られた方、皆さんに「また来よう」と思ってもらえるように対応したい。